

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0173600420, 社会医療法人 延山会, グループホームCoCoすみかわ, 北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号, 平成27年10月8日, 平成27年12月10日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0173600420-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室, 平成27年11月26日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念にある「その人らしくほのぼのと」をモットーに安心して穏やかな生活を送って頂く事ができるように、入居者個々の身体的、精神的状況の変化に合わせた支援を試行錯誤しながらその状況で入居者様に一番良いと思われる対応を見つけている。医師が施設長で看護師が常駐しており、併設病院との密接な連携により医療健康管理においても安心感を持っていただいている。入居者の身体機能維持については併設病院の理学療法士の、食事の嚥下状況に関しては歯科医師や衛生士、また食事や栄養の問題については栄養士のアドバイスを受けることができる。また併設老人保健施設のサークルや行事への参加も可能で、入居者の活動に選択の幅がある。また地域で行われる行事にも機会がある毎に参加している。近くの小学校の特別支援学級の子供との交流も毎年行っている。また看護専門学校の在宅看護論実習や認知症介護実践研修、実践リーダー研修等の実習の受け入れも行っている。防災対策では地域合同火災避難訓練を併設事業所や町内交通防災部との連携に加えて近隣住民の方にも毎年参加していただき実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市西部に位置し、開設15年が経つ『グループホームCoCoすみかわ』は、苫小牧澄川病院・老人保健施設苫小牧健樹園・介護相談センターすみかわに併設しており、運営母体である病院の医療対応や、身体機能低下時のリハビリ指導、また老人保健施設で行なわれる行事やサークル活動への参加など、4事業所が連携し協力体制を構築している。事業所では災害対策に力を入れ、地域住民や関連施設と合同の避難訓練の他に、食料品等の災害時備蓄品も用意し、地震や津波の訓練も実施しており、全職員が危機感を持ち自然災害に備えている。利用者のほとんどが近隣住民であり、地域と常に交流しており、町内会行事の参加・地域合同避難訓練の開催、『CoCoすみかわ便り』の町内回覧板への添付・市の文化祭に利用者の手芸作品の展示・認知症サポーター研修会の開催・小学校学芸会の参加・近隣住民のボランティア訪問・認知症の方や家族・支援者がリレーをしながら北見市から大牟田市まで一つのタスキをつなぐ『RUN伴2015』に参加する等、地域との関わりを保ちながら、家庭的で安らぎのある暮らしが送れるよう、利用者や家族を支援している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes and staff interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に掲示する他、スタッフが所持またはロッカー内に貼り勤務前に確認する等行っている。	基本理念と介護理念は、事業所のパンフレットに記載し、ホームページ上で公表している。全職員で検討した年度目標も設定し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、小学校の学芸会やコミセン祭り等へ出かける等している。散歩で町内の人や知り合いと会話したりする事が増え最近では作っている花を貰ったりする事もある。祭りの時には子供神輿がホーム迄来てくれたり、入居者が出店に出掛け交流している。またボランティアの活動や火災時の協力体制等連携を図っている。今年は市の文化祭に入居者の作った作品の展示を予定している。	利用者は近隣住民が多く、入居後も継続して日常的に交流している。町内大掃除・コミセン祭り・小学校学芸会見学や、関連事業所である老健施設の夏祭り・七夕祭り・運動会・お茶会・餅つき等に参加し、事業所のバーベキューや避難訓練には地域住民が参加している。看護学校の実習生の受け入れや、スコップ三味線・大正琴・手芸等のボランティア訪問も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学校や他事業所からの実習の受け入れを行っている。ホームの広報誌に認知症得ワンポイントアドバイスを載せ、地域に回覧している。また同法人他事業所職員を対象に認知症に係る講義を行ったり、市主催のサポーター養成講座の講師も11月に予定している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においてホームの活動や利用者の状況を報告している。また家族会と合同で開催し行事へも参加していただき、入居者と交流の機会を設ける等工夫している。	家族代表・市役所職員・町内代表・地域包括支援センター職員等が出席し、事故・ヒヤリハット報告・避難訓練の反省点・研修報告・地域との交流等が話し合わせ、事業所の運営に効果を上げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に随時連絡を取っている。全ホームが加入している苦小牧のグループホーム連絡会においても、毎回の例会で市担当者からの指導や意見交換、交流の場が設けられている。運営推進会議には必ず出席していただいている。	運営推進会議には、市福祉部介護福祉課職員や地域包括支援センター職員が参加している。管理者は、苦小牧グループホーム連絡会に出席し交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設事業所合同の抑制廃止委員会に入っており、委員会主催だけでなくホーム内でも学習会を行っている。出来るだけこまめに見守りを行う事で危険の回避に努めており身体拘束をしているケースはない。また安全のための見守りが抑制に繋がる事の意識づけを行っている。言葉による抑制などについても職員会議等において具体例をあげて説明している。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。抑制廃止委員会では学習会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加すると共にホーム内でも実際に他施設で発生した事例を基に研修を行っている。また外部研修等で得た情報も会議等で伝達し現場で生かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び成年後見制度について研修会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改正する際には重要事項説明書・契約書を分かり易く説明し、ご理解いただいたことを確認した後同意のサイン・押印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族会合同の運営推進会議等において意見・要望を伺う他家族様の会話からも意向を感じ取るように努力している。それらの内容で介護、支援に関わる内容については利用者別に意向ノートに記入し全スタッフが確認する事で日常のケアや運営に生かすようにしている。	公的機関の苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記し入居時に説明している。家族会もあり、行事や運営推進会議の参加等、家族の意見を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月第2木曜日に行っている。また代表者が参加する運営会議も月1回行われている。年間活動計画作成時において職員の意見を引き出し、反映できるように努めている。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに年1度の人事考課を行い職員の実績を評価している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や勤務年数による昇給がある。また人事考課を行っており定期的に職員と面接の機会を持ち意見を聞くと共に向上心を持てるように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所合同で新人職員研修の他様々な研修がある。また当ホーム独自に新人職員研修のカリキュラムを作っている。認知症介護実践者研修には毎年1名を参加させている。また管理者その他外部研修へ積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会がネットワークとなっているため可能な限りスタッフが出席し情報交換出来るよう配慮している。認知症介護実践者研修やリーダー研修の他施設実習を通して相互交流が行われ日々の取り組みに生かされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた後にご本人の所を訪問したり、ホーム見学時によくお話を伺う等、機会を生かして対応している。入居前に何度かホームを訪ねてもらい、事前にスタッフとの関係作りをすることもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より意識して関係づくりを行っている。また入居が決まった段階で家族と面談し家族に要望や意向を確認し当方がどのように取り組んでいくのかなど説明する事で安心頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は総合的に受け止め他機関と連携し必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、共に支え合う対等な関係作りを心掛け、可能な仕事(掃除や調理)は入居者本人と協働して行っている。入居者が自ら行動しようと思うような働き掛けを意識して行う事で調理の下準備や洗濯物たたみを自ら進んでされる機会は増えている。また調理の仕方等で意見を求めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時においてスタッフはご本人の日々の状況を伝える等交流を持つように努めている。ご家族の中には毎日のように来て食事介助される方もいる。また家族会や行事に参加して頂く事で相互理解を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方は散歩や町内会で行われる行事への参加の機会を作っている。歩行状況の変化に伴い行きつけの美容室へお連れする事が難しくなっている方や、自宅を売り払った為家族より家の近くには行かないで欲しいとの希望があり知人と出会う機会が減少している人もいる。	節分・ひなまつり・七夕・十五夜等、日本古来の風習や生活習慣を大切に、季節に合わせた行事を行っている。大正琴・フルートアンサンブル・オカリナ・手芸等の、ボランティア訪問も利用者の楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行はあるが入居者間で相手を気遣い食器を下膳してあげる等自主的な関わりは以前と変わりなく見られる。しかし人間関係が上手く行かない時もあるため上手く関わりを持てるよう、職員が利用者同士の関係を取り持ちたり座席位置を工夫する等配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に立ち寄っていただけるよう声掛けを行っている。退居後の家族から相談の電話が来たりしておりアドバイス等を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意識したアセスメントに努めている。日常生活場面や趣味、行事等において意向の確認を出来る範囲で行っている。本人に意向確認が難しい方に関してはご家族より話を伺い思いを推測してケアに生かしている。	日常の様子や会話から、個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、本人本位の生活が出来るように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご家族から聴取するのみではなく、在宅で利用中のサービス事業者や病院等からも情報を収集、把握している。また在宅訪問も行い生活環境の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な働きかけや可能性を想像することで持っている力の把握に努めると共に1人ひとりのその日の気分や身体状況も把握し、申し送りやサービス担当者会議等にて情報の共有を図っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当医その他関係者とも連携を密にし、ご家族がサービス担当者会議に出られない場合にもご本人の状況や変化を説明し希望を伺いながらケアプランを作成している。毎月のサービス担当者会議前にシートを各スタッフに渡し、個々に考え記入する事により意見も出るようになって来ており、プランに生かしている。	センター方式を活用し、日常生活の言動や行動から利用者の意向を汲み取るほか、食事・排泄・睡眠等の状況や、さらに家族の希望要望、医師や看護師の意見等を参考にしながら、介護計画の定期及び随時見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化や対応、気づきがあった時は日誌に赤や青など色を変えて記入する事で分かり易くし、申し送りを行い、サービス担当者会議時に検討する等行っている。また病状面等に関しては申し送りノートに記入漏れが無いようにしている。勤務日数が少ない職員は勤務前にアセスメントシートに目を通し状況の変化などの把握に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊に対する支援、家族等への寝具、食事の提供他事業所の機能を活かした対応も行っている。また併設している老健施設の行事への参加や必要時病院の歯科医師やリハビリスタッフ、栄養士等からアドバイスを受ける等併設事業所の機能も活用できる体制がある。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活や行事、趣味活動等においてボランティアの方の援助をいただいている。また災害時や行方不明者発生時等の状況に応じて町内会やSOSネットワークと連携を取る体制となっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の同意を得て併設病院の外来受診の定期的な訪問も受けており病状への対応について相談したり、指示を仰ぐ等しながら健康管理を行っている。希望時や必要時には他の専門医の指導を仰ぐ等も行っている。	運営母体が医療法人で、施設長が医師であることから、緊急時にはすぐに対応できる体制ができており、利用者や家族にとって安心感がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長は看護師である為、介護職員は日常のケアの中での変化や気づきをホーム長へ報告し状況に応じて受診等を行っている。また排泄状況を把握し下剤の調整等細かく行っている。ホーム長不在時は併設病院の看護師に相談し必要に対応を行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はこまめに面会を行うと共に病棟看護師やソーシャルワーカーと病状等の情報交換や状況によっては歯科医師による嚥下状況の評価を受けそれにより食事形態の指示を受ける等退院時期を相談したり必要な準備を協働して行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を早期に確認し状況に応じて医師、家族、ソーシャルワーカーも入って方針を立てている。	医療連携体制の下、看取りに関する指針を策定している。入居時から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明している。運営母体が医療法人なので安心感が高い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設病院での勉強会へ参加したりホーム内でも急変時の対応について勉強会を行っており少ずつではあるが何をしなければならぬかを理解してきており対応力が身に付きつつある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内スタッフの地震津波災害時の対応について勉強会を開催、また併設事業所や町内会、近隣住民と合同で火災避難訓練を行う等している。また地震や津波を想定した避難訓練も年1回実施している。また避難誘導時に各入居者の避難方法が分かり易い様にドアに表示を行った。	年2回消防署の協力の下、町内会役員や近隣住民と共に火災・地震・津波の避難訓練を行っている。また、缶詰や飲料水等の食料品の備蓄もしている。利用者家族の災害時避難場所も一覧表にし、すぐに持ち出せるよう準備している。	多くの地域住民や関連施設が参加する『地域合同避難訓練』は、これからも継続して行うように期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを傷つけないように勉強会やスタッフ会議で注意しているが排泄時に安全確保の為ドアを開けている状況をまだ見かけることがある。また以前より少なくなってきているが日々の情報交換が入居者の前で行われ名前が出る場面がある。	利用者のプライドや羞恥心を大切に、誇りを傷つける事がないよう周囲に配慮しながら支援している。サービス向上委員会主催の接遇研修では、『認知症の人の尊厳』について勉強会を実施した。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の温度や好み、食事の味付け、やりたいこと、好きなTV番組等希望を引き出したり、各個人が少しでも選択したり決定できるよう意識して関わっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行に伴い介護が増加し職員のペースで援助しがちな状況ではあるが少しでも個人の希望や思いに沿って楽しい時が持てるような支援を意識している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等において自分で選択できる方には好きな衣類を選んでいただいているが、出来ない方に関しては季節感やおしゃれを意識して支援している。ヘアーカットに美容室に行けない方に関しては訪問美容室に来ていただき好みに合わせてカットやパーマをしていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて調理の下準備、盛り付けや食器洗い等出来る事を行って頂ける様働き掛けている。少しでも喜んで頂けるようなメニュー作りや、味付け盛り付けを行うよう努めている。会話の中からも食べたい物がある時にはメニューに取り入れている。	利用者の、身体状況・嗜好・栄養バランスに配慮して作成した献立表に基づいた食事を提供している。個々の嚥下や咀嚼状態に合わせ、ソフト食やペースト食に対応し、食欲が出るように見た目にも美しく盛り付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューでは栄養のバランスを考え作成している。水分・食事は毎日チェックし、その方の嚥下状況によりとろみをつける、ミキサーに掛ける、刻んだり等形態も変えている。また容器を工夫する等行っている。体重が増加している方に関しては摂取カロリーを調節する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内外の研修会に参加している。個人の状況に応じて支援する事で残存している歯が少しでも保持できるよう努力しているがケア自体を嫌がられたり、口を開けていただけない方もいる。入居者の状況に合わせ歯科より歯科衛生士が来て歯の状況を見てケアの方法等アドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLの低下が重度な方にも2名介助する等出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。各個人の排泄パターンやシグナルを把握、日中は布パンツに変更したり、オムツの当て方を工夫する等している。認知症が進行してきた方へも少しでも自力で行えるようモデリングを行ったり行動に繋がりが易い言葉掛け等工夫している。	利用者の身体的状況や、心理的な負担も検討しながらトイレ誘導の方針を職員が話し合い、支援している。個々の排泄パターンやシグナルを把握し、トイレでの排泄支援を中心に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や朝にヨーグルトを飲んでいただく等工夫している。個人的に状況に応じた下剤調整も行う他腹部マッサージや運動への働き掛けも行う事でほぼ排便コントロールは行えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に対する希望がある時は意向に合わせて行っているが、殆どの方は希望が無く曜日を決めて入浴している。体調の変化には十分注意し入浴日の変更等も行っている。また入浴剤の使用や季節の柑橘類を入れる、また手作りの入浴剤を使用する事で喜ばれているが頻度は十分とは言えない。	体調や要望を聞き、一人ひとりの習慣に合わせた入浴支援をしている。入浴による体力の消耗を減らし、気持ちの良い入浴ができるよう取り組んでいる。ハーブやかんきつ類等、職員手作りの入浴剤は好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状況や入眠状況、希望等を考慮した上で支援している。また入居前の生活状況に合わせ昼寝等もしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等についてはスタッフにその都度説明している。また毎服薬状況のチェックも行っている。副作用と思われる症状が見られた時には主治医に報告し服薬量や服薬時間の変更など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の好む事等を把握し地域の行事へ一緒に参加したり、好みのTVを観たり、歌ったり、手芸をしたり、散歩したりする事で楽しみの時間を持って頂いている。また家事等で各入居者の状況に合わせてカレンダーめくり、調理準備、プラゴミ投げ等の役割を持っていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出掛ける希望に対しては、天気・気温等配慮し行っている。重度化した方は散歩の機会が少ない為ベランダでの日光浴を行っているが頻度は多くない。最近では家族様と一緒に散歩をされる方もいる。本人からの希望や表情などを見極めて買い物や外食等出かける機会を設けている。	季節や天候によって、庭での外気浴や近くの公園まで散歩している。町内会行事や隣接する老健施設の行事に参加し、利用者の希望により、花見・サクランボ狩り・紅葉狩りなどのドライブ外出や、外食に出掛けている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を必要とする時はその都度家族に持参していただき、支払時にはご本人に行っていたりなど支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族は毎日来られる方が多く、交流は密にあり電話や手紙の希望はない。交流の少ない方については職員が家族に電話を掛けた際にご本人に代わり話していただく事で喜ばれた。しかし頻度は多くはない。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダからは畑や庭に咲いた花を見ることが出来る。また季節に応じてお雛様、鯉のぼり、十五夜のお供え物を入居者と一緒に飾る等している。また最近では壁の季節のデコレーション作りを入居者と一緒に行い、作成した作品も展示している。湿度にも注意し加湿器も使用している。また日差しに対してはテーブルの位置を変えたりカーテンを利用している。	吹き抜けのリビングは明るく開放的で、利用者作成の手芸作品や行事写真が随所に飾られている。居間から見える菜園ではいろいろな野菜や花を育てている。玄関・居間・食堂・キッチン・浴室・廊下等は広くゆったりとした造りになっており、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前や廊下にもソファを置いたり、一人掛けの椅子を置いたり、ソファに人形を置いたりして寛げるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベット・タンス等の家具に関してはできるだけご本人が使用していたものを持って来ていただいている。また家族の写真を貼ったりご自分で作った物を飾るなどしている。	居室には、洗面台や収納箇所も設置されており、整理整頓され清潔である。思い出のある家具や小物、家族写真が持ち込まれ安心の場となっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前を付ける、トイレの表示、大きな時計、日めくりカレンダー等によりわかり易くする等工夫している。	